



ダイニングとソファースペースの間に薪ストーブを設置。吹抜けを設けた縦に伸びる空間に合わせて煙突が伸び、よりダイナミックな印象の空間となった。薪ストーブはダブル社の640CB。クラシックなスタイルだが使い勝手やメンテナンスがしやすく、初心者でも安心して使う事のできる薪ストーブ。



広間の北側に配置したソファースペース。ソファ横には大きめの窓を設置し、通風と共に緑を楽しむことのできるスペースになった。外構の列柱、植栽、障子などを設け、開放感を味わいながらもプライバシーを確保した空間が出来あがった。



子供室に飾られた赤鬼の絵と青鬼の工作。家のあちこちに子供たちの作品や緑が飾られ、木の家暮らしを楽しんでくれている様子がとても嬉しい。

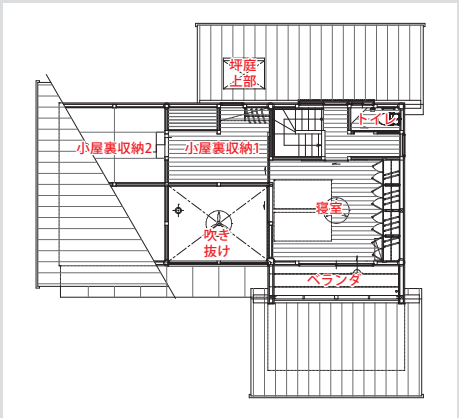
変わっただけで、庭などの外構の様子も大きく変化しました。一年をかけて外構工事を行い、板塀や薪小屋に加えて植栽も増え、部屋の中から木々の変化を楽しめる空間も出来あがりました。今回は『サンの家』の工夫や特徴と合わせて、植栽などを暮らしに取り入れた雰囲気もお伝えしたいと思います。

今回ご紹介する『サンの家』は、昨年の3月に完成し、早いもので木の家での暮らしも一年を経過しました。木の家は、木材の性質から四季の温度や湿度などに合わせて少しずつ変化していき、また同時に木の色も新築時と比べて落ち着きのある色合いに変化していきます。取材でお伺いした『サンの家』も柱や梁をはじめ、床板で使った桧や家具で使ったタモ材などもだんだんと味わいのある色に変化し、新築時とはまた違った落ち着きのある雰囲気になっていました。

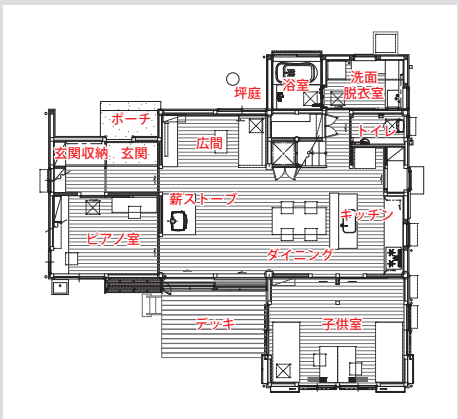
完成現場報告
島田市／『サンの家』
文・写真／コロボ 山崎健治

自然と共に
イキイキと暮らす

ダイニングとソファースペースの間に位置する吹抜け空間。縦に伸びた空間は開放感があり、この家のシンボリックな場所になっている。1階の大きなガラス窓に加え、ハイスайд窓から差し込む光が家中に広がり、明るくイキイキとしたイメージをつくり出している。1階の床には綺麗な桧の床板を選んだ。桧は明るい色合いに加えて独特の艶があり、明るく清潔感のある雰囲気を演出している。



2F平面図



1F平面図

仕様内容

外部仕上	家族構成	家族4人
	敷地面積	362.93㎡
	建築面積	93.76㎡
外部仕上	延べ床面積	130.84㎡
	構法	在来工法
	屋根	ガルバリウム鋼板タテハゼ葺き
外部仕上	外壁	マサ土入りモルタル掻き落し仕上げ、ガルバリウム鋼板角波タテ貼り
	外部建具	木製オリジナル建具 桧、ナラ、ヒバ
		ペアガラス
内部仕上	天井仕上	アルミサッシ (ペアガラス)
	壁	杉本実張り 厚12mm
	床	漆喰コテ押え、サワラ本実板張り 厚15mm
設備	内部建具	桧本実板張り 厚30mm
	キッチン	オリジナル木製建具
	キッチン	ステンレスヘアーライン天板オリジナルキッチン
設備	洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板オリジナル洗面化粧台
	浴室	日比野化学工業ハーフユニットバス
	薪ストーブ	壁、天井:青森ヒバFJ 本実板張り 厚15mm
設備	薪ストーブ	ドブレ640CB
	設計者	山崎健治
	施工	有限会社こころ木造建築研究所
設備	竣工	平成26年3月



ソファースペースに合わせて坪庭を設けた。坪庭に植えられたコハウチハカエデは葉が大きく、道路からの目隠しにも最適。窓を開けると、とても心地良い風が通り抜け、風になびく葉の様子もまた安らぎを与えてくれる。



薪ストーブのある空間の隣に設けたピアノ室。こちらでも大屋根空間を利用し、勾配天井を現した造りとした。ピアノ室には本棚と机を合わせた造り付けの家具を製作し、家族のスタディースペースとしても活躍している。

スペースとしました。寝室からの出入りとなりますが、屋根形状を利用した収納スペースは思ったより広く、大きな納戸として利用できます。今回はスペースを有効に使うため、玄関の天井を少し低く抑え、小屋裏スペースをより広く確保しています。小屋裏スペースの床には段差がありますが、普段は出し入れしない物もあるからという事で空間を無駄無く利用しました。今回採用した大屋根形状ひとつで豊かな空間と効率的な収納スペースをつくり出す事ができました。さらに屋根の上のスペースも利用して太陽熱温水器用のパネルも設置しました。太陽光発電と違い、畳2帖程の省スペースで十分な熱をとる事ができるので、その他の屋根とは違う目的でも利用できそうです。

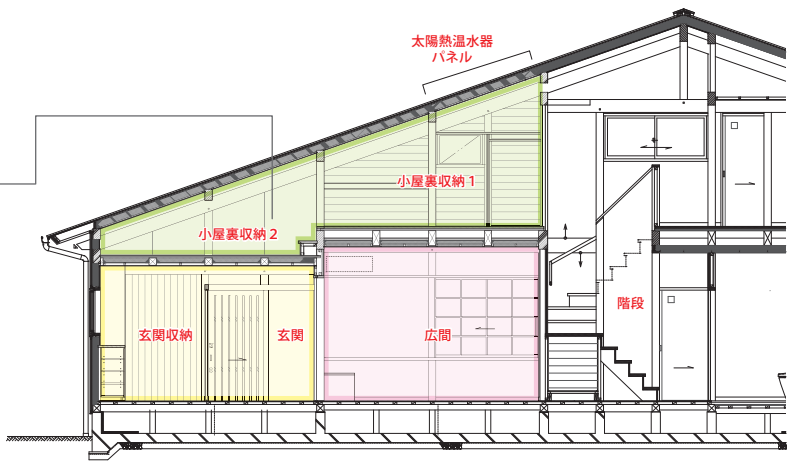
スペースとしました。寝室からの出入りとなりますが、屋根形状を利用した収納スペースは思ったより広く、大きな納戸として利用できます。今回はスペースを有効に使うため、玄関の天井を少し低く抑え、小屋裏スペースをより広く確保しています。小屋裏スペースの床には段差がありますが、普段は出し入れしない物もあるからという事で空間を無駄無く利用しました。今回採用した大屋根形状ひとつで豊かな空間と効率的な収納スペースをつくり出す事ができました。さらに屋根の上のスペースも利用して太陽熱温水器用のパネルも設置しました。太陽光発電と違い、畳2帖程の省スペースで十分な熱をとる事ができるので、その他の屋根とは違う目的でも利用できそうです。

右) 大屋根が特徴的な北側外観。道路と建物の間に植栽を設け、ゆとりのあるアプローチを確保している。玄関前と坪庭前に目隠し用の板塀と列柱を設け、道路からの目隠しと外観の要素となっている。

下) ハイサイド窓を2階の寝室から眺めた様子。1階から見上げると空が見え、2階からは庭の様子を見ることができる。台形のFIXガラスは納めが難しいが、大工と板金屋、ガラス屋との連携で綺麗に納めることができた。



屋根形状を利用して設けた小屋裏収納。収納の先端は斜め天井のため低くなってしまうが、1階部分の天井を下げ収納スペースを最大限に確保している。



大屋根断面図

大屋根空間を利用した吹抜けと収納計画

『サンの家』は2階から大きく暮き下ろした屋根が特徴的な外観です。大きな屋根は見た目にも安定感があり、どっしりとした印象を与えてくれますが、この屋根は外観だけでなく様々な機能やスペースを生み出してくれる大切な役割を持っています。『サンの家』の初期計画では屋根形状が現在とは違い、南北に切妻を掛けた形状でした。この時は間取りも現在とは少し違い、間取りの変更に伴って屋根形状も様々検討し、最終的に東西に大屋根を掛けた形状に決定しました。この大屋根形状にした事によって、ダイニングとソファァーコーナーの間に開放的な吹抜けが生まれました。吹抜けには台形のハイサイドを設け、南からの日差しをふんだんに取り入れる事ができ、明るく、この家の中心的なスペースとなっています。また、このスペースに薪ストーブを設置する事で、よりシンボリックな空間となり、家族をはじめ人の集う場所になりました。吹抜けに薪ストーブを設置すると、1階だけでなく2階も効率良く暖めてくれるため、暖房計画としても有効的なスペースになっています。

薪ストーブのあるスペースは吹抜けとなりましたが、ソファァーコーナーと玄関上部の空間は大屋根空間を利用した小屋裏収納の

『サンの家』 木でできたアイデアと工夫をご紹介



ハーフユニットバスと、壁・天井に青森ヒバを張った浴室。北側の浴室だが、大きな窓の効果で明るくカラッとした浴室となっている。



洗面脱衣室は3帖程の広さを確保。バケツなどの掃除道具やタオル類が整理して置かれ、奥さんの工夫が感じられた。



玄関スペース。4帖の玄関に仕切り建具を設け、2つのスペースに。ひとつは出入り用に、もうひとつは収納用に分け、格子建具は目隠しの役割を果たしている。



1階トイレの手洗いカウンター。カウンター上部の壁にサワラ板を張り、木目の綺麗さと共にサワラ板の香りも楽しめる壁となった。



階段手摺を工夫し、格子壁とアイアン手摺を設けた。格子の下部は階段下を利用した収納スペースとなっている。



二の字型に配置したオリジナルキッチン。シンク台には収納付きのカウンターが設置され、目隠しと共に機能的な役割を果たしている。キッチンの隣は子供室があり、家事をしながら子供たちの様子も感じられるスペースとなった。



右上) 建物南側の庭。持て余すほど大きなスペースだが、楽しみながら徐々に色々な木が植えられている。奥さんの希望は菜園。植栽と合わせて収穫も楽しめる庭になるといいですね。

左上) 坪庭のコハウチワカエデ。屋根上部を開口し、光と共に雨も入るよう工夫。小さなスペースだが今後も元気に育ってほしい。

左下) 浴室窓の格子と坪庭前の列柱。板塀を加えると3種類。どれも同じ木材だが、寸法や隙間の大きさで雰囲気が異なる目隠しに。

『サンの家』の敷地は比較的ゆとりのある広さで、周辺建物も低く、それほど気になる物はありません。この恵まれた敷地を活かして駐車場や外構、植栽などを考えながら、建物形状を検討していきました。北側の道路からゆとりをもって駐車場を確保し、合わせて玄関までのアプローチも植栽を交えて少しゆとりとした広さを確保しました。また、建物南側の庭も十分な広さがあり、奥さんご希望の菜園もつくる事ができそうです。恵まれた敷地条件の中で十分な外構計画が出来ましたが、最初から完成形をつくるのでは無く、暮らし

内と外を繋ぐ外構計画

に合わせながら徐々に進めていただければと思います。

完成から一年が経過し、『サンの家』のMさんがはじめに行った植栽は、庭と玄関前の植栽、そして最も室内に近い植栽としてソファークォーター横の坪庭にも植栽をしてくれました。植栽の工事をお願いしたのは「こらばスクール」などでもお世話になっている良知樹園さん。Mさんと共に植木畑に行って、一本一本選んでくれたと聞きました。坪庭に植えられた木は「コハウチワカエデ」。少し大きめの葉が涼しげでとても綺麗なカエデです。坪庭の窓は道路からの視線が少し気になっていたため、大きめの葉はともありがたいですね。植栽と合わせて外構工事も行い、南の庭には薪小屋と板塀をつくりました。板塀の工事はMさんが行ってくれ、とても丁寧な仕上がっています。玄関前と坪庭にも目隠しを兼ねて板塀と角材の列柱をつくりました。列柱は杉の梁材を利用し、強度と水切れを考慮しながら基礎との連結部分を納めていきました。外構や植栽が出来あがると、内と外に繋がりが生まれ、いっそう豊かな空間になりました。庭に木々や草花、土などがある事で、今までは家の中にいた子供たちも、自然と外に出かけ遊びを考えています。ちよっとした緑のスペースでも工夫次第で豊かなスペースが生まれるので、これからも積極的に提案していきたいと思っています。

成長と変化の楽しみ

完成してまだ一年ですが、外構や植栽とともに室内の様子もだんだんと変わってきました。家族で参加したワークショップの木工作品や子供たちの絵や工作などが飾られたり、奥さんのアイデアで収納の仕方が工夫されたり、草花が飾られたり…。生活の楽しさが伝わりつつも、とても綺麗に使われている様子が嬉しく、完成時よりも家がイキイキしていると感じました。木の利点も欠点も、自分たちの暮らしに上手に受け入れ、家族みんなが楽しそうに暮らしている。つくり手の私たちにとっても嬉しい事であり、同時に今後のエネルギーにもなっています。

これからも『サンの家』は変化し、家族の成長と共に味わい深い家になっていくと思います。今後も木々の成長や家の変化を楽しむにしたいと思っています。

